

# 知識活用型授業への転換を図るために

## — 中学校社会科教員のための実践的研修法の開発 —

川 畑 祐 一 郎

平成20年3月、中学校の新学習指導要領が告示され、当研究所においても研修講座の在り方について再検討を行う必要が生じた。特に、生徒の「社会に参画する力」を伸ばすための研修法を開発することが急務であった。

本研究は、「授業の導入部における発問づくり」に焦点を絞った教員研修法を開発し、「知識活用型授業」に関する受講者の実践力を高めることを目指したものである。また、現場での授業実践を行うことで、研修成果を授業に生かす方法を例示し、その効果を検証した。

**<キーワード> 新学習指導要領、社会に参画する力、知識活用型授業**

### I 主題設定の理由

当研究所で実施している中学校社会科研修講座には（Ⅰ）と（Ⅱ）がある。研修講座（Ⅰ）は主に地理的分野の「地域調査」に関する研修を所外で行っている。研修講座（Ⅱ）は、社会科の授業理論に関する講義および演習を行っている（表1）。

特に、研修講座（Ⅱ）のアンケート結果を分析したところ、「講義で学んだ理論を、実践に生かす方法が分からない」という声や、「新学習指導要領で授業はどう変わるのか知りたい」といった声が多いことが分かった。また、グループ協議についての満足度が高かったことから受講者間の交流が大切であることが分かった。

以上の分析を踏まえ、新学習指導要領に対応した、実践的な研修講座を新たに開発するとともに、受講者間の交流をさらに充実させることが重要であると考え、本主題を設定した。

表1 中学校社会科研修講座（Ⅱ）の内容構成表

内 容	担 当 者	研修のねらい
① 講 義	大学教授などの外部講師	理論を知る
② 実践発表	福井県教育委員会により 任命された「授業名人」	事例に学ぶ
③ 演 習 研究協議	所員（講座担当者）	実践する 交流する

### II 研究の目標

社会科に課せられた役割や教科の目標を再確認するとともに、受講者にとって理解しやすく、実践しやすい研修法を開発する。また、授業改善の方向性を具体的に示す。

### III 研究の方法

#### 1 新学習指導要領の分析について

社会科の授業の中で生徒のどのような力を伸ばすべきか、そのためにはどのような授業改善を行うべきかを考察する。

## 2 研修法の開発について

グループ協議の手法を取り入れた新しい研修方法を開発・実践し、受講者の活動状況や事後アンケートを通じて、その有効性を検証する。

## 3 授業実践について

授業改善の方向性を具体的に示すと共に、生徒の活動状況や事前・事後アンケートを分析して、その効果を検証する。

# IV 研究の内容

## 1 新学習指導要領の基本方針

平成20年3月に文部科学省より中学校の新学習指導要領が告示された。改訂にあたっては、次の3点が特に考慮された。

- (1) 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を重視する観点
- (2) 言語活動の充実の観点
- (3) 社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する観点

(3)については、さらに、次のように解説されている。

（前略）特に教育基本法及び学校教育法に規定されている「**公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと**」は、中学校社会科学習の究極の目標である、**公民的資質**の基礎の育成と密接に関わるものである（以下、略）。

ここに述べられている「社会の形成に参画」という表現は、今回の改訂によって新たに加わった部分の1つであり、新学習指導要領が、生徒の「社会の形成に参画」する態度や能力の育成を、特に求めていることが分かる。

## 2 新学習指導要領に対応した授業の在り方に関する考察

ここで、新学習指導要領が「中学校社会科学習の究極の目標」と述べている「**公民的資質**」とは何かについて考えてみたい。角田（2007）は、「社会科とは民主主義社会を支える市民を育成する教科である」とし、「民主主義とは何かを知識として知ってはいても、それを自在に活用し、現代社会のあり様を解釈し、鋭く批判していける力を身につけておかなければ意味がない」と述べている。戸田（2003）もまた、「（地域の問題が）最終的には住民投票で決せられる場合も起こりはじめた。（中略）是非が分かれる政策について、適切な判断基準を自ら設定でき、判断できる市民の育成こそが重要ではなからうか」と指摘している。市民の社会参画において、角田や戸田が指摘したような「現代社会のあり様を解釈し、鋭く批判していける力」が必要であるとするならば、社会科の中で、「民主主義に関する知識を活用する力」すなわち「知識活用力」を育成していく必要があることが分かる。角田は「社会科は本来的に知識活用型の学力の育成を目指すべき教科なのである」と結論付けており、それはPISA型の学力観とも相通じる考え方であろう。

唐木（2008）は、「今や『活用』は一つのブームとなっている。その火付け役となったのが先に触れたPISA調査である」と述べた上で、中教審は「基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる『習得型の教育』）」と、自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる『探求型の教育』）」の二者択一的な教育観を乗り越える視点を築きあげよう」として、つまり「『習得型の教育』と『探求型の教育』の2つの教育を連続させる接着剤の役割を果たす教育として『活用型の教育』に注目」したのだと指摘している。

### 3 「知識活用型授業」に関する考察

「知識活用力」を育成するためには、「知識活用型授業」を充実させることが望ましい。ここで「知識活用型授業」とは、どんな授業を指すのかを、松島（2007）を参考にまとめることにする。

「知識活用型」授業においては、生徒が主体的に課題を発見し、学習を進めることが重視される。例えば、公民的分野の人権についての学習を終えた生徒が、赤ちゃんポストの是非について考えるとする（図1）。この生徒は、授業で学んだ基本的人権に関する知識や、平等権に関する知識などを活用しながら、課題に対する自分なりの答えを主体的に考えていく。

この過程で、生徒の「知識の再構成」が促され学習内容への理解が一挙に深まる（図2）。次に生徒は、自分の答えを発表し、他の生徒と意見を交換する。

このような授業の利点は次の3つである。

- (1) 社会の形成に参画する上で欠くことができない「知識活用力」の育成を図ることができる。
- (2) 「知識の再構成」を通じて、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を、より強固なものにすることができる。
- (3) 学習成果を発表する活動を通じて、言語活動の充実を図ることができる。



図1 「知識活用型授業」概念図a

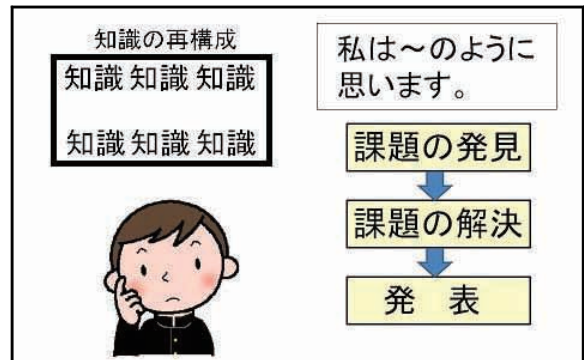


図2 「知識活用型授業」概念図b

### 4 学校現場の現状分析

以上の考察によって、新学習指導要領のもとでは今まで以上に「知識活用力」を伸ばす授業、すなわち「知識活用型授業」を充実させる必要があることが明らかになった。ところが、知識の活用を重視する声がある一方で、私たちはよく、「社会科は暗記教科である」という声を耳にする。その理由を考えると、今までの授業では、どちらかといえば、生徒に大量の知識を与えることを重視する「習得型の教育」に主眼が置かれ、「活用型の教育」が十分に行われてこなかったからではないだろうか。

無論、現場の教員の多くは「知識活用力」を育成することの重要性を熟知していると考えられる。ところが、なぜ現場では「知識活用型授業」が増えていかないのだろうか。その原因としては、次の2つが考えられる。

- (1) 「知識活用型授業」を増やそうとすると、授業研究に対する教員の負担が増加する。
- (2) 「知識活用型授業」の主要な手段である「調べ学習・発表」や「ディベート学習」などの活動を頻繁に取り入れると、授業時間が不足しがちになり「知識の習得」に支障をきたす。

教員の負担を増やさず、授業時間も確保した上で、なおかつ「知識活用型授業」への転換を促していく方法が求められている。

### 5 平成20年度の中学校社会科研修講座（Ⅱ）の方向性

- (1) 「授業の導入部における発問の工夫」に焦点化した演習の実施

「知識活用型授業」においては、生徒が学習内容に対する興味・関心をもち、主体的に学習に参加することが必要条件である。それならば、まず、授業の導入部における発問を工夫することが、「知識活用型授業」を行う上での最初の手がかりになるのではと考えた。授業の最初に、学習内容に対する興味・関心や問題意識を高めることができれば、生徒の主体的学習を促すことができると考えられ

るからである。そこで、平成21年度の中学校社会科研修講座（Ⅱ）では、授業の導入部の発問の工夫に焦点化した演習を導入することにした。この演習法のメリットは、次の2点である。

- ① 研修内容を焦点化することで、限られた時間の中で高い効果を上げることができる。
- ② 導入部の発問の工夫だけであるならば、普段行っている授業の時間配分をあまり変えずに済み、研修成果を学校現場で実践しやすい。

さて、生徒に興味・関心をもたせる発問とはどのようなものであろうか。地理的分野・公民的分野におけるキーワードには、「地域」「生活」「世界と私」等があると考えられる。最初から「世界」「日本」などという広い視点から学習を始めるのではなく、生徒が実際に活動している「地域」や、家庭や学校での「生活」に密着した話題から授業を展開していくことが興味・関心を引き出す上で重要である。また、地理的分野・公民的分野においては「世界や社会の動きが、私の生活と無関係ではないこと」に気付かせることも大切である。

歴史的な分野のキーワードは「地域」「歴史と私」等がある。「日本全体の歴史と地域の歴史が密接に関わってきたこと」に気付かせたり、「過去の歴史が、現在の私の生活に影響を与えていること」に気付かせることによって、学習内容に対する興味・関心が高まることが期待できる。

以上の理由により、平成21年度の研修講座に、上記のキーワードに従って、受講者に授業の導入部における発問を考える演習を導入することにした。

(2) 「長期休業中における生徒の自主研究テーマ」を考える演習の実施

「知識活用型授業」では、生徒の主体的学習に加えて、「知識の再構成」というプロセスが重要である。教員が「適切なテーマ」を複数提示し、生徒が長期休業中を利用して各自でテーマを選択してレポートを作成するという学習法を提案した。この学習法のメリットは次の3点である。

- ① 「調べ学習」や「ディベート学習」を学期中に行う方法に比べ、通常の授業時間を確保できる。
- ② 「知識の再構成」の上で適切と思われるテーマを教員が提示することによって、より高い学習効果が期待できる。
- ③ 生徒にテーマ選択の余地を残すことで、生徒の主体性をある程度尊重できる。

なお、生徒のレポートを一冊にまとめ、生徒間で回覧して相互評価を行わせるのも効果的であろう。

以上の理由により、平成21年度の研修講座に、長期休業中における生徒の自主研究テーマを考える演習を導入することにした。

6 平成20年度 中学校社会科研修講座（Ⅱ）の実施と結果分析

表2 平成20年度 中学校社会科研修講座（Ⅱ）の内容構成表

内 容	担 当 者	研修のねらい
① 講 義	「社会に参画する能力や資質の基礎を培う社会科の授業づくり」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 關 浩和 教授	理論を知る
② 実践発表	「地域素材を活用した学習活動の工夫」 福井市進明中学校 山田 仁志 教諭	※県社会科研究協議会の取り組みを紹介 事例に学ぶ
③ 演 習 研究協議	所員（講座担当者） ※演習についての事前ガイダンス	実践する 交流する

※講演者や実践発表者に講座の趣旨を十分に説明しておき、相互の関連性が深まるように配慮した。

(1) 演習の具体的方法

① 班編制と分担

まず、表3のように、受講者を3つの班に分け、それぞれ公民の教科書の単元を1つずつ分担することにした。次に、班の中での分担を決めた。各自、教科書2ページ分（授業1時間相当）の導入部を考えた。

なお、班編制の際には年齢構成に配慮した。

② 学習目標の確認・発問の開発

学習指導要領をもとに、自分が担当する授業の学習目標を確認した。さらに、生徒の居住地や、生徒の実生活が学習内容とどのように結び付いているかを考察し、できるだけ多くの発問を「演習シートA（図3）」に記入した。

③ 発問をもとにした授業案の構想

各自が考えた発問の中から1つを選び、その発問をもとにした授業案を構想した。それを「演習シートB」に清書し「演習シートC」に貼り合わせた（図4）。「演習シートC」は、あとでコピーし、受講者全員に配布した。

④ 班別研究協議と発表

「演習シートC」をもとに、図5のように班別研究協議をした。最後に班の代表者が発表し、講師の關先生から講評を頂いた。

表3 演習の分担表

※単元名は東京書籍「新しい社会 公民」より

	人数	単元名
A班	4	地方の政治と自治
B班	4	国民生活と福祉
C班	4	国際問題と地球市民

社会に参画する能力を培う授業づくり  
演習シートA

氏名	
単元名	
節名	
目標	

◎中学生の生活に直接結びつくと思われる発問をできるだけ多くつくり、以下に書き出して下さい。

◎◎で考えた発問を生かして、授業の導入部を書いて下さい。  
記入例：最初に～という発問を行い、～という資料で確認してから、教科書の～の説明へと発展させます。

図3 演習シートA

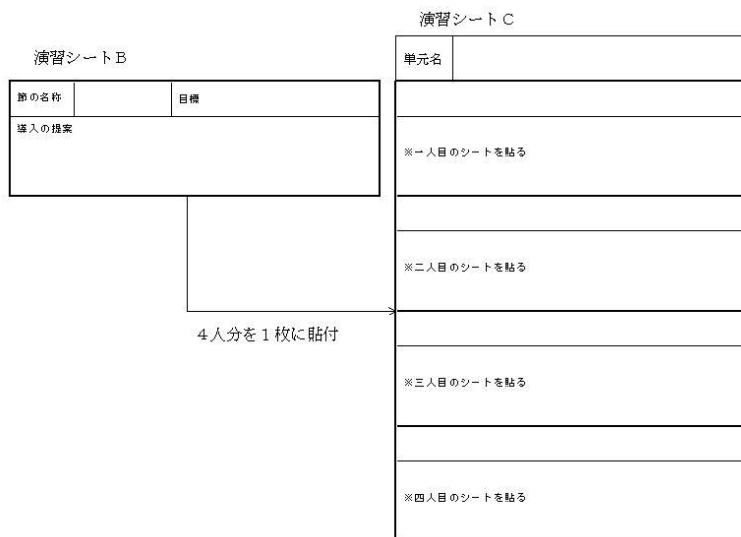


図4 演習シートB、C



図5 班別研究協議のようす

(2) 研修講座の成果

① 受講者が発表した授業案を以下に紹介する。

例1 単元名 国際問題と地球市民 第5節 人口と食糧問題

「私たちの中学校では、残食がどれくらいあると思いますか」という問いから、発展途上国と日本の違いに気付かせ、南北問題の学習に進む。

※残食のデータは、各学校で入手可能。

例2 単元名 地方の政治と自治 第1節 わたしたちと地方自治

まず福井県、大阪府、宮崎県の知事の顔写真を黒板に貼り、「これらの写真の共通点は何か」「どんな仕事をしているか」と問う。次に、知事の仕事を具体的に調べさせ、地方自治への理解を深めていく。

② 講座終了後のアンケート結果

(図6)を見ると、研究の目標であった「受講者がよく理解でき、実践しやすい研修法」を開発することができたことが分かる。

③ 受講者の感想(表4)からも授業開発への意欲が高まったことが分かる。

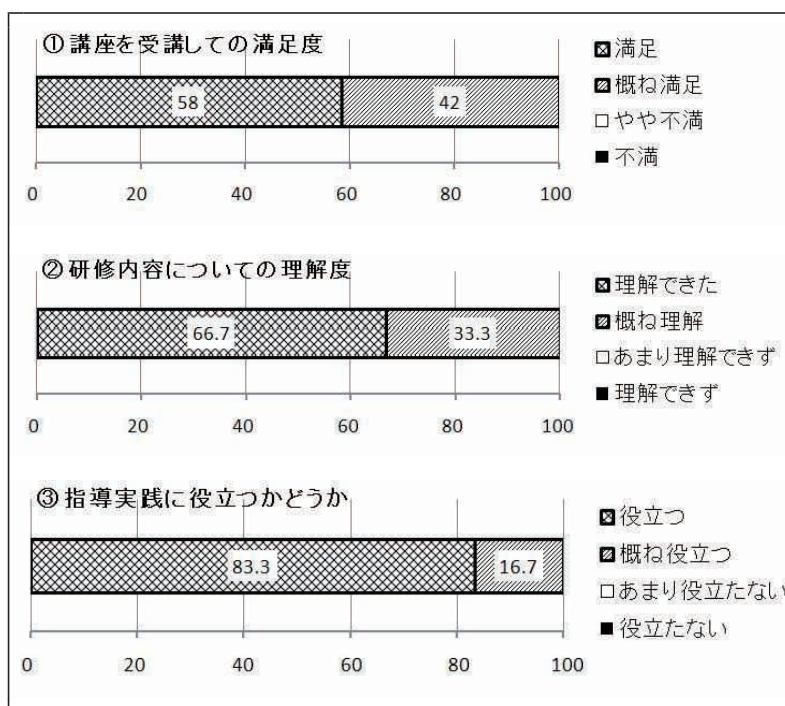


表4 受講者の感想

- ・社会科教師としての使命を再認識した。
- ・教材は身近な所に溢れていることを改めて感じた。
- ・内容が焦点化されており、授業開発の視点がよく身に付いた。
- ・他の学校の先生方との教材開発は面白い。
- ・子どもたちに「学ぶ目的」を伝えられるような授業がしたい。

7 授業実践の実施と結果分析

(1) 授業実践の概略

単元	第3章 現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治 ※『新編 新しい社会 公民』（東京書籍）を使用。
実践内容	ワークシート「公民チャレンジシート」を授業の導入部で使用。所要各5～10分程度。
実施期間	平成21年6月15日～6月26日
対象	福井市大東中学校3年4組 33名



図7 授業風景（その1）

(2) 「公民チャレンジシート」の実際

# 公民チャレンジシート1

## 私たちの意見を政治に生かす

福井県の敦賀市に、中池見<sup>なかいけみしち</sup>湿地という場所があります。この場所には豊かな自然環境が保たれ、約70種のトンボなど貴重な昆虫や植物がたくさんすんでいました。ところが、1989年、この場所は工業団地の建設候補地となり、1992年、敦賀市議会で、液化天然ガス（LNG）の基地を誘致することが決議されました。このままでは中池見の貴重な自然が失われてしまいます。そこで、中池見の自然を守ろうとする市民や科学者が立ちあがりました。さて、彼らはどんな運動を行っていったでしょうか。



中池見湿地

Q1 市民たちは具体的にどんな運動を展開したかを考えてみましょう。

A：どうすれば、行政や天然ガスの会社を説得し、開発をやめさせることができると思いますか。



B：どうすれば、より多くの人々に中池見湿地への関心をもってもらえると思いますか。

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

図8

<解説> 生徒にとって比較的身近な、福井県の話題を取り上げることで、生徒の興味・関心を高めることをねらいとしている。

# 公民チャレンジシート2

## 民主的な方法でルールを決める

Q1 いままで、学級の中や部活動などで「多数決で決まったルールなのに、一部の人が守らなくて困った」ことはありませんか。全員がルールを守るようにするためには、どのように話し合いを進めれば良かったのでしょうか。



Blank area for writing answers to the question.

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

図9

<解説> 生徒会活動など、生徒の身近な生活から民主主義について考えさせることをねらいとしている。



# 公民チャレンジシート3

## 望ましい選挙のあり方について考える

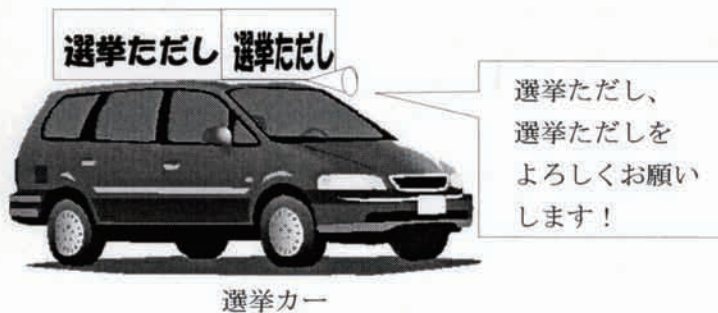
Q1 福井市で過去10年間に行われた選挙の回数を下の表にまとめました。みなさんが住んでいる地区では、どこが投票所になっているか知っていますか。

衆議院議員選挙	3回 (前回は2005年)
参議院議員選挙	3回
福井県知事選挙および福井県議会議員選挙	3回
福井市長選挙	3回
福井市議会議員選挙	4回

うち1回は同日実施

私の地区の投票所は  
です

Q2 日本の立候補者は右のような選挙ポスターやのぼりを作ったり、選挙カーを使って選挙運動を展開するのが特徴です。このような選挙運動の方法について、どのように思いますか。



選挙ポスター



※文字は少ししか書かれていません

私の意見

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

図10

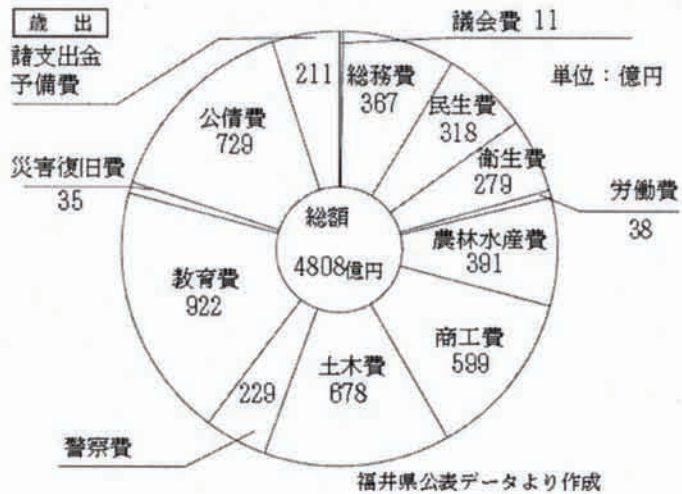
<解説> 生徒の実体験に即して、選挙について考えさせることをねらいとしている。

# 公民チャレンジシート4

## 正しい世論を形成するためには

Q1 右のグラフは福井県の平成21年度予算の内訳を調べたものです。これを見たあなたは、「教育費をもっと増やすべきだ」という意見を持ちました。

どうすれば、この意見を社会に伝えることができるでしょうか。



Q2 内閣府では様々な世論調査を実施していますが、全ての国民から意見を聞いているわけではなく、統計学という学問にもとづいて、調査人数を決めています。右のような世論調査の場合、調査人数は何人だと思いますか。

人

※ちなみに日本の総人口は約1億3千万人です。

エネルギーに関する世論調査  
(平成17年 内閣府)

政府は、各家庭などで省エネへの協力を呼びかけるため、目安となる室温設定を冷房28度と公表していますが、これについてどう思いますか。

暑い	39.8%
適切	51.3%
寒い	2.2%
分からない	6.7%

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

図11

<解説> 生徒にとって身近な、福井県の予算をもとに意見表明の方法を考えさせたり、テレビなどでよく目にする世論調査を取り上げ、生徒の興味・関心を高めることをねらいとしている。

# 公民チャレンジシート5

## 政治における政党の重要性を考える

Q1 民主主義国家の政治においては、政党の存在がたいへん重要です。それはなぜでしょうか。次の文章の（ ）にあてはまる言葉を入れてみましょう。

国会の議決はたいてい（ ）によって行われるので、国会議員はできるだけ同じ考えをもった仲間どうしで集まり、政党をつくろうとします。選挙の時には、立候補者の所属政党が投票の目安になります。どの政党に所属しているかで、その立候補者がどんな考えを持っているかを、おおよそ知ることができるからです。しかし、ある一つの政党に所属していると、その政党が嫌いな人からは支持を受けることができないので最近では（ ）として立候補する人が増えてきました。

Q2 下の表は、1958年以降の福井県選出の衆議院議員について、所属政党を調べたものです。この表を見て、気づいたことを書きなさい。

福井県選出の衆議院議員の所属政党のうつりかわり

総選挙の回数	当選者の所属政党名				
第28回	1958年	自民	自民	自民	社会
第29回	1960年	自民	自民	自民	社会
第30回	1963年	自民	自民	自民	社会
第31回	1967年	自民	自民	自民	社会
第32回	1969年	自民	自民	自民	社会
第33回	1972年	自民	自民	自民	社会
第34回	1976年	自民	自民	社会	無所属
第35回	1979年	自民	自民	社会	民社
第36回	1980年	自民	自民	社会	民社
第37回	1983年	自民	自民	民社	無所属
第38回	1986年	自民	自民	自民	無所属
第39回	1990年	自民	自民	自民	社会
第40回	1993年	自民	自民	社会	無所属
第41回	1996年	自民	新進	民主	
第42回	2000年	自民	自民	自民	
第43回	2003年	自民	自民	自民	民主
第44回	2005年	自民	自民	自民	民主

 は惜敗率による復活当選者を示す



( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

図12

<解説> 生徒にとって身近な、福井県の選挙結果をもとに、政党について考えさせることをねらいとしている。

(3) 授業実践の成果（事前アンケート、事後アンケートの比較から）

問1 あなたが住んでいる地域で、何か解決したい課題はありますか。

事前アンケートでは「街灯が古い、暗い」や「踏切がない」「川が汚れている」などの具体的な意見が見られた。さらに、事後アンケートで「新たに課題が見つかった」と回答した生徒が5名いた。

問2 あなたが住んでいる地域に大きな工場ができたとします。煙突から出る煙やススで住民の健康に悪い影響が出はじめました。住民の一人が、工場や市役所に電話してみました。全く相手にしてくれません。さて、この問題の解決法が分かりますか。

右の表13をもとに、授業の前後を比較すると、「裁判所等に訴える」という回答が減った一方、「住民運動をおこす」という趣旨の回答が大幅に増えている。中池見湿地の事例で学習したように「科学者を呼んで調べてもらう」といった回答もあり公民チャレンジシート1の効果が見られた。

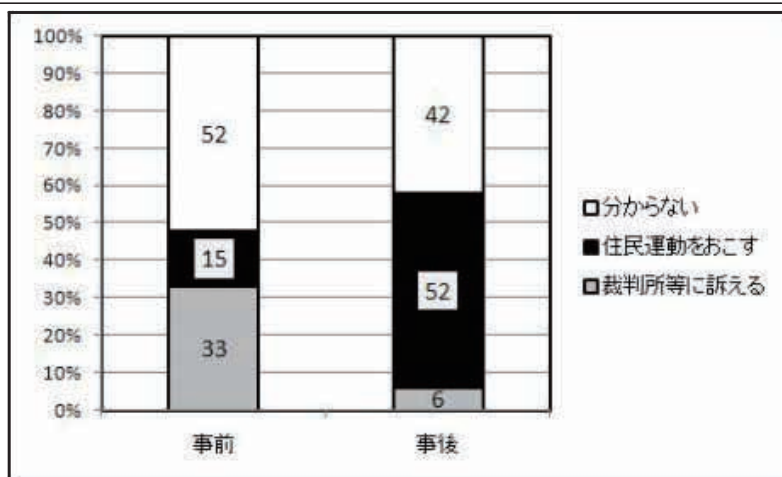


図13 工場の煙による健康被害に対し、あなたはどうか

問3 学校の生徒会活動や委員会活動に対して、どう思いますか。次の3つの中から選びなさい。

- A 生徒会活動や委員会活動は私たちにとって必要だと思う。
- B 学校のことは先生が全て決めればいいので、生徒会活動や委員会活動は必要ないと思う。
- C 生徒会活動や委員会活動が必要かどうかよく分からない。

表5 生徒会活動や委員会活動は必要か

授業後は、Aを選んだ生徒が増えており、チャレンジシート2での学習が、今後に生かされることが期待される。

	A必要	B不要	C分からない	無回答
事前	26名	1名	4名	2名
事後	29名	0名	2名	2名

問4 日本では20歳になると選挙権を得ることができます。あなたは投票に行きたいですか。

次の3つの中から選び、理由も書きなさい。

- A 投票に行きたい
- B 行きたくない
- C 分からない

この問いに関しては、事前・事後共に、約3分の2の生徒がAを選んでおり、あまり変化が見られなかった。ただし、BやCを選んだ生徒の理由を見てみると「政治に興味がないから」「面倒くさいから」といった回答が消え、「誰に投票するかを決めるのが大変そう」といった積極的な回答が増えた。チャレンジシート3によって、生徒の興味・関心が高まった結果であると考えられる。

問5 過去50年間の福井県選出の衆議院議員を調べた場合、何党の出身議員が最も多いか知っていますか（事前アンケート）。 ※チャレンジシート5に関連

授業前、この問いに正確に答えることができた生徒はわずかに1人であり、政党に対する生徒の認識の低さが浮き彫りとなった。しかし、事後アンケートで「今後、機会があれば、国会中継（特に党首討論）を見たり、新聞を読んだりして、政党ごとの政策の違いについて知りたいと思いますか」と尋ねたところ、64%の生徒が「知りたいと思う」と答えており、関心の高まりが見られた。

表6 生徒の感想

- ・政治にはいろいろな政党があるんだなと思いました。今まで看板とかに貼ってあるの（ポスター）を何も気にせず見ていたけど、学習後、「この人はこの政党でどのようにする」などを見てきました。人それぞれ違う言葉で書いてあったけど、みんな日本のことをこんなに思っているんだなと思いました。
- ・政治のしくみについて、すごく難しそうだったし、ニュースもじっくりとは見ていなかったから、わからないことばかりだったけど、勉強してみるとおもしろかったです。反対意見があった場合はどうするかとか、学校とかでも役に立ちそうなことのほかにも、たくさんのが分かりました。
- ・5枚のワークシートをやって、日本の政治状況などを知ることができました。あと5、6年経ったら選挙権を得ることができるので、その時は是非、投票しに行きたいと思います。
- ・民主政治を学習して、分からなかったことなどが分かるようになって良かったです。特に選挙に関しては、いつか行ってみたいと思っていたので、いろいろな仕組みがあるということを知れて良かったです。今までのワークシートで学習したことはこれからも使えるときがあるかもしれないので覚えておきたいです。

(7)「現代の民主政治」を学習した感想を自由に書いて下さい。

私は今まで全く政治に興味がなく、新聞もほとんど読みませんでした。でもいろいろなことを学習していくうちに政治って自分達にも関係しているんだ、大事なんだなあと考えるようになり、新聞の政治の部分も読むようになりました。政治のしくみは、自分達の学校生活や身の回りに活かすことができるものがあり、もし事が起こったら公平に対処する方法が分かったので、機会があったら活用したいと思います。

テレビなどで放送された話題になっていたりする裁判などに、参加はできないけれど、世論調査という形で意見を言うことができるということは、今まで、大臣の人達だけで決定していると思っていたので驚きました。20歳になったらぜひ選挙にすすんで参加したいと思います。今回の学習で政治に興味を持ったので、これから自主的に政治について調べたいと思います。

公民チャレンジシート2の内容

公民チャレンジシート4の内容

図14 生徒の感想の実例

(4) 授業実践のまとめ

生徒の感想（表6および図14）を見ても、「公民チャレンジシート」の内容に具体的に触れたものが多く、学習内容への興味・関心の高まりや、社会参画への意欲の向上を実感することができた。また、実際に授業をされた三上先生からは「学習の動機付けができ、授業が進めやすかった」という感想を頂いた。



図15 授業風景（その2）

## V. 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- (1) 現場ですぐに生かせる、実践的な研修法を開発した結果、受講者の満足度が向上した。
- (2) 「理論を知る」「事例に学ぶ」「実践する」の3つの要素を密接に関連付けることができた結果、研修内容に対する受講者の理解度が向上した。また、「知識活用型研修」とすることができた。
- (3) 班ごとに研究協議をしたことで、受講者間の交流が活発になった。
- (4) 研究成果を「公民チャレンジシート」の形にまとめ、現場での活用例を示すことができた。授業実践での使用においては、学習内容に対する生徒の興味・関心を高める上で、効果的であることが検証された。

### 2 今後の課題

- (1) 「導入部の発問」に関する研究協議が活発に行われた結果、「長期休業中における生徒の自主研究テーマ」については発表の時間がなくなってしまった。演習のガイダンスをプレゼンテーションソフトを使って行うなど、講座の効率的運用および内容の精選が必要である。
- (2) 「公民チャレンジシート」については、生徒の意見が出にくい設問がいくつか見られた。設問の難易度に関する研究協力員との細かい打ち合わせが必要であった。また、「授業の導入部」で扱うのではなく、内容のまとまりに従い、授業の途中で扱ったほうがよいと思われる設問もあった。

最後に、本研究の実施にあたり、福井市大東中学校の三上勝先生には、御多忙の中、研究協力員として多大なる御協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

### 《引用文献》

- 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』
- 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版
- 角田将士（2007）「民主主義を視点に社会的事象を批判的に理解できる力」『社会科教育 2007年11月号』明治図書 p. 14
- 戸田善治（2003）「ディベートにもとづく社会科授業」社会認識教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブー変革と提案ー』明治図書 p. 253
- 唐木清志（2008）『子どもの社会参加と社会科教育ー日本型サービス・ラーニングの構想ー』東洋館出版社 p. 26
- 松島康之（2007）「『解決法を提案する』授業力ー診断と改善策ー」『社会科教育 2007年11月号』明治図書 pp. 32-35

### 《参考文献》

- 棚橋健治（2007）『社会科の授業診断ーよい授業に潜む危うさ研究ー』明治図書